



地震で家屋倒壊！ 対策は？

— 阪神、熊本の経験を活かす —

つくし野3丁目 防犯防災部
つくし野3丁目 防災支援隊

熊本地震から1年、阪神地震から10年経ちました。
ともに「M7.3、最大震度 7、直下型地震」であり、「今後30年間で7割の確率で発生が予測されている首都直下型地震」が同じM7.3、最大震度7とされています。

震度7クラスの揺れでは、耐震設計（又は改修）をしていない木造家屋は、倒壊の危険性（※）があります。 熊本・阪神では特に1階がつぶれ、そこに寝ていた高齢者が「即死」「圧迫死」に至っております。



（※）この倒壊危険性の目安は

- 昭和56年5月以前に建てた木造家屋（耐震基準強化以前の木造で地震に弱い）
- つくし野3丁目には、約130戸残っており
- 全戸建て数の約26%に相当（4軒に1軒）

首都直下型大地震の際、3丁目を最悪被害から守る（特に死傷者数の最小化）には、家具の固定や備蓄はもちろん大事ですが、最大の防御は「耐震補強の実施」です。

町田市の耐震化促進制度

- ◎ 無料で専門家から簡易耐震診断が受けられます（昭和56年5月以前に建てた木造家屋）
- ◎ 必要により、詳細診断・耐震設計／改修となった場合、市から補助金が出ます。
- ◎ 大規模改修なら高額工事になりますが、自分自身を守る「防災ベッド」のみなら50～60万円で済みます。

- ➡ 申込みは、市役所住宅課窓口へ。
042-724-4269 まずはお問合せを！！
（準備書類：①建築確認通知書、②建築物図面）
- ➡ 4月から受付開始中（4/1付広報まちだ掲載）。
予算に限度があり、早いもの勝ちです！！



全体の流れと内容について

簡易耐震診断

市が派遣する「木造住宅簡易耐震診断調査士」が、目視による簡易な診断を行います。これはあくまでも耐震性能の目安なので、耐震改修工事を行うためには、精密耐震診断と耐震設計が必要になります。



木造住宅簡易耐震診断調査士

無料

精密耐震診断

市に登録している「木造住宅耐震診断士」が、(財)日本建築防災協会が定める精密診断法により、耐震性能の判定を行います。破壊調査は行いません。



木造住宅耐震診断士



木造住宅耐震アドバイザー※1

私がサポートします

助成額
経費の1/2
かつ
10万円上限

耐震(簡易耐震)設計

精密耐震診断の結果、評点が1.0未満と診断された住宅を評点が1.0以上にする補強計画(簡易耐震設計においては評点が0.7以上、または1階のみ評点が1.0以上、その他市長が適当と認める補強計画)の設計です。市が指定した機関が、設計内容の審査を行います。



木造住宅耐震アドバイザー※1

私がサポートします

助成額
経費の1/2
かつ
10万円上限

耐震(簡易耐震)改修工事

耐震設計(簡易耐震設計)に基づき行う補強工事です。市が指定した機関が、工事内容の検査を行います。



木造住宅耐震アドバイザー※1

私がレポートします

助成額 経費の1/2
かつ

一般世帯 耐震 50万円上限 簡易 30万円上限	高齢者世帯※2 耐震 70万円上限 簡易 50万円上限
--------------------------------	-----------------------------------

耐震シェルター等設置

ベッドを安全空間にするシェルター、あるいは部屋の一部を安全にするシェルターを設置することです。東京都が指定した装置から選定してください。



木造住宅耐震アドバイザー※1

私がサポートします

助成額
一般世帯
経費の1/2
かつ
20万円上限

助成額
高齢者世帯※2
経費の9/10
かつ
50万円上限

※1 「木造住宅耐震アドバイザー」は、市が無料で派遣します。

※2 高齢者世帯とは、20歳以上、65歳未満の方(障がい等級2級または1級の方は除く)がいない世帯、かつ年間所得額が200万円以下の世帯のことです。

評点とは?

評点1.5以上



倒壊しない

評点1.0以上1.5未満



一応倒壊しない

評点0.7以上1.0未満



倒壊する可能性がある

評点0.7未満



倒壊する可能性が高い